

幼稚園・小学校の連携による取り組みから — 架け橋期の学びのつながりについて考える —

Kindergarten and first-grade teachers' collaboration: Educators' views of transition process

野田 多佳子¹ 荻原 ひろみ¹ 川島 亜紀子² 大野 歩²
 NODA Takako OGIHARA Hiromi KAWASHIMA Akiko OHNO Ayumi
 澤野 琢郎³ 細野 貴寛³ 村田 祐樹³ 若本 純子⁴ 青木 央⁵
 SAWANO Takuro HOSONO Takahiro MURATA Yuki WAKAMOTO Junko AOKI Hisashi
 入月 安奈³ 笠原 成晃³ 古屋 あゆみ¹ 吉岡 良介¹ 泉 紗恵¹
 IRIZUKI Anna KASAHARA Masaaki FURUYA Ayumi YOSHIOKA Ryosuke IZUMI Sae

要約：文部科学省は、令和3年に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」を設置し、幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての議論がなされている。山梨大学教育学部附属学校園では、大学との連携や取り組みを強化しており、その中の一つとして令和3年度より「幼小接続ワーキンググループ」を発足させ、附属幼稚園・附属小学校・山梨大学の教員で研究会を実施している。本稿では、令和4年1月に作成した「山梨大学教育学部附属幼小接続カリキュラム」に基づく「一日入学」の取り組みから、実践報告に基づき、架け橋期の学びのつながりについて考えたい。

キーワード：幼小接続、架け橋期、幼小接続カリキュラム、幼児、児童

I はじめに

山梨大学教育学部附属学校園（以下、本学校園）と山梨大学教育学部は、附属学校園と大学との連携や取り組みを強化しており、その中の一つとして令和3年4月に「幼小接続ワーキンググループ」を発足し、附属幼稚園・小学校・山梨大学の教員で研究会を行っている。令和4年1月には「山梨大学教育学部附属幼小接続カリキュラム」を試作、取り組みを開始している。以下Ⅲ節でも示すように、これまでも附属幼稚園と附属小学校との交流やカリキュラムの作成を行ったが、継続されなかったことが課題である。

本稿では、「山梨大学教育学部附属幼小接続カリキュラム」に基づき行った「一日入学」の取り組みから、実践報告に基づき、架け橋期の学びのつながりについて考えていきたい。なお、本稿での「架け橋期の学びのつながり」は、中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会の「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」(令和5年2月27日)に基づき、「幼児期の興味や関心に基づいた多様な体験」を「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の…育成」につなげる(p. 9) こととする。

¹ 教育学部附属幼稚園 ² 山梨県小学校教員養成特別教育プログラム ³ 教育学部附属小学校

⁴ 山梨県小学校教員養成特別教育プログラム・教育学部附属幼稚園

⁵ 令和4年度教育学部附属小学校・令和5年度甲府市立大田小学校

Ⅱ 幼小接続における今日的課題

文部科学省は、令和3年に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」を設置し、幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きが策定された。その中で、「幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要」であると述べている。したがって、「架け橋期の教育の充実」とは、幼児教育が「早期教育や小学校教育の前倒し」（中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会の「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」p.12）ではなく、小学校教育における変容と理解を促しているといえる。具体的には、「小学校においては、幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施」することや、「幼児教育の特性に関する認識の共有」として、「幼児期の遊びを通じた学びの教育的意義や効果の共通認識を図る」ことが提案されている。したがって、「幼児期の遊びを通じた学びの特性」を社会や小学校等に十分理解してもらうことが課題である。本稿ではこれを踏まえ、この課題に対する本学校園の取り組みについて紹介する。

Ⅲ これまでの附属幼稚園・小学校の接続に関する取り組み

本学校園においては、これまでも、幼小接続について、共同で研究を行ってきた。特に平成14年度から16年度の3年間にかけては、研究主題「育ちの過程の連続性を考えるー幼小の連携を通してー」のもと、幼小接続の課題に取り組んだ。1年次には、主に教員側の連携に着目し、幼小の教師間の交流をはかり、保育実践を通して子どもの発達していく過程を探っていきながら幼小の接続について検討した。2年次は、子ども側のつながりに着目し、小学校での授業を園庭で行ってみる、といった試みを行いながら、子どもたちの姿を丁寧に記録し、接続期の互惠性のある交流活動について探った。この2年間の実践を踏まえ、3年次には、研究最終年度の成果として、幼小の交流活動を中心とした「幼小年間計画」を作成し、また、幼稚園の公開研究会において、附属幼稚園5歳児担任、附属小1年生担任、大学教員による「これまでの研究を振り返って」と題してシンポジウムを開催した。その際、幼稚園全学年担任、小学校1年生担任、大学教員が参加し、継続的に研究会を行いながら、子どもの姿の観察・記録をもとに研究を進めてきた。しかしながら、過去に行われたこうした研究の成果は、幼稚園、小学校のカリキュラムには反映されているとは言えない状況にあるが、こうした実態は本学校園に限らない。

平成22年の幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方についての報告においては、ほとんどの地方公共団体が幼小接続の重要性を認識しているものの、その取り組みは十分とは言えず、市町村教育委員会の80%において幼小接続のための取り組みが行われていないという調査結果を出している。その理由として、①接続関係を具体的にすることが難しい(52%)、②幼小の教育の違いについて十分理解・意識していない(34%)、③接続した教育課程の編成に積極的でない(23%)、が挙げられている。¹⁾ここから、幼小接続の必要性は感じてはいるものの、実際にどう取り組んでいくのか、継続させていくのか。幼小の教育をつないでいくことの難しさが読み取れる。

特に、令和2年度から令和4年度には、新型コロナウイルス感染症予防のため、交流活動も制限せざるを得ない状況にあった。子どもたちの学びをつなぎ、育ちを支えていくためにも、幼稚園と小学校が相互に歩み寄り、カリキュラムをつなぎ、途切れずに幼小接続に取り組んでいくことが求められる。

引用文献

- 1) 「幼小接続座長試案」初等中等教育局幼児教育課 平成22年12月

IV 山梨大学教育学部幼小接続ワーキンググループの取り組み

Ⅲの課題を踏まえ、既述した通り、本学校園では大学との連携・取り組みを強化しようとしており、その中の一つとして「幼小接続ワーキンググループ」を設定、2年間にわたり研究会を実施している。

1 1年次の取り組み

文部科学省の「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」設置を受け、令和4年1月に、試案としての「山梨大学教育学部附属幼小接続カリキュラム」を作成した(図1)。

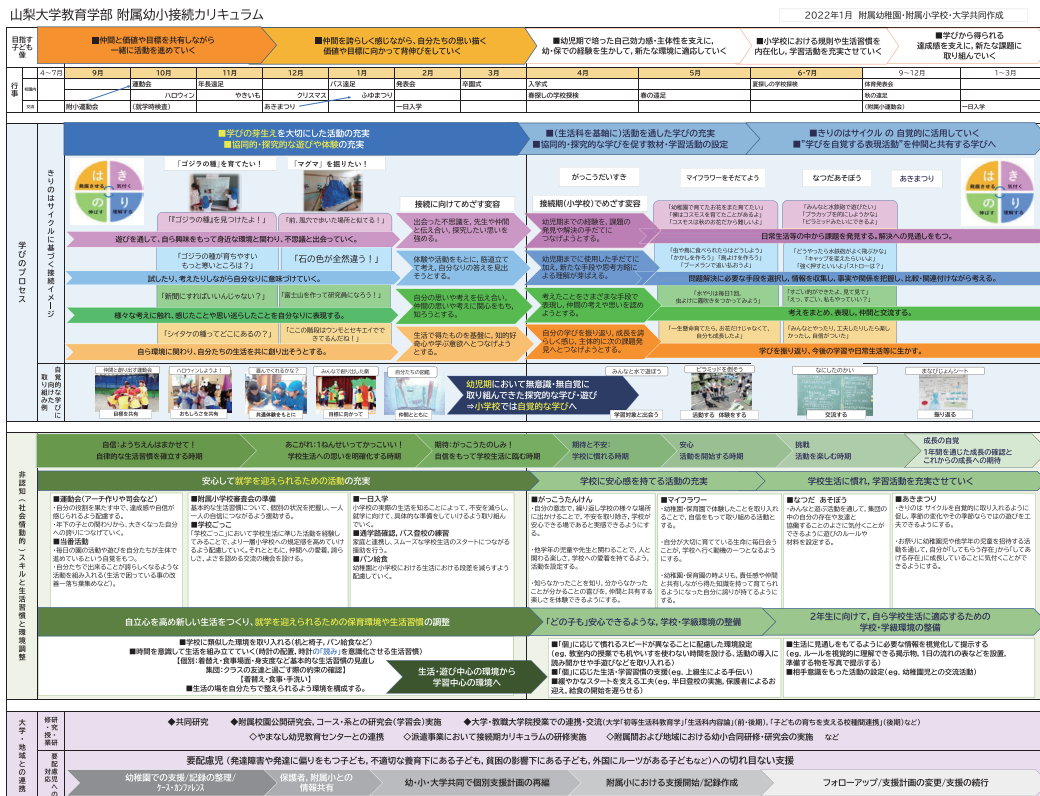


図1 山梨大学教育学部附属幼小接続カリキュラム

具体的には、本学校園で以前より探究プロセスの理解として共有していた「きりののは」サイクル(図2)を用いて、5歳児4月から1年生3月までの2年間の接続を目指したものではあるが、作成段階で幼児教育・小学校教育との間で十分な議論ができていないなど、課題を残すものとなった。

並行して、令和4年度から開始された附属四校園での共同研究のテーマである「非認知能力」を取り入れ、「非認知(社会情動的)スキルと生活習慣と環境調整」という項目や、附属幼稚園で重点を置いている「大学・地域との連携」についての項目を設け、幼小大で連携しながら「要配慮児への対応」を行うことについて、加

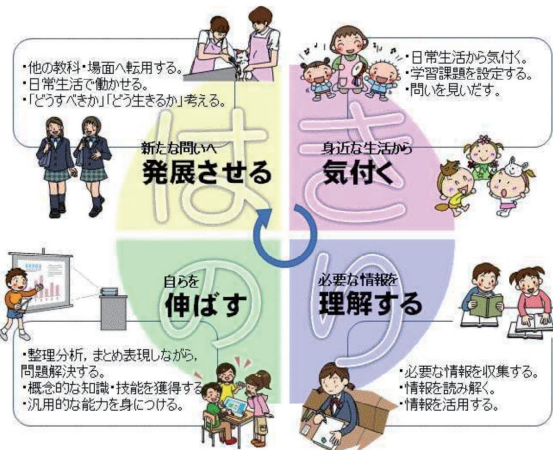


図2 本学校園共通探究の「きりののは」サイクル

筆した。発達障害や発達に偏りをもつ子ども、不適切な養育下にある子ども、貧困の影響下にある子ども、外国にルーツがある子どもなど、要配慮児への切れ目ない支援を目指していることを明記したことは、文部科学省が進める「個別最適な学び」を視野に入れた、一定の意味があるものと考えられる。

2 2年次の取り組み（「一日入学」）

2年次は、山梨大学教育学部附属幼小接続カリキュラムに記載した「一日入学」を、「安心して就学を迎えられるための活動の充実」として実施した（令和5年2月）。なお、この「一日入学」はカリキュラム案の作成以前も行っていたが、コロナ禍により中止されていたもので、令和4年度に3年ぶりに再開したものである。

「一日入学」の取り組みは、1）事前調査（5歳児からの聞き取り）、2）事前打ち合わせ（附属小学校教員・附属幼稚園教員による意見交換）、3）「一日入学」当日から構成された。

（1）事前調査 5歳児からの聞き取り

「一日入学」の実施にあたり、5歳児の実態を幼小の教員間で共有することを目的として、5歳児が「小学生に聞いてみたいこと」を1年生の教員に伝えた（表1）。聞き取りの時期は1月下旬で、集団活動の際に、幼稚園の担任が聞き取った。5歳児の質問は、「学習面」よりも「生活面」の方が多かった。入学にあたって、5歳児は小学校生活についての不安をもっていることがうかがえる。特にトイレ（失敗してしまった時）や給食など、身近な生活の変化に対して見通しがいいことによる不安がみられる。「学習面」では、いわゆる紙と鉛筆を使った教科の学びへの不安よりも、水泳を含む体育についての質問が多かったことから、コロナ禍における経験不足が関連していることが示唆された。

また、自分たちが幼稚園の中庭に池を作った経験が、小学校への散歩において「三角池」への関心につながったこと、またその時に小学校教員から「三角池」を説明された経験が、さらに「三角池」について聞きたいという関心につながっていることは興味深く、1日の散歩であっても、幼児教育における経験と小学校の学びとをつなぐきっかけとなることと考えられた。

表1 5歳児からの聞き取り結果

質問カテゴリー	具体的内容
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋が知りたい。トイレの場所など行きたいところがどこにあるか、わからないと心配。 ・勉強の部屋を見てみたい。 ・トイレ、漏れちゃったら、どうしたらいいか。 ・給食お当番は、何人か。 ・どんな遊びがあるのか。遊ぶ時間に、何をするのか。 ・バスが心配。時間に間に合わなかったら、どうしたらいいか。 ・何のために三角池があるのか。池の下の穴は、何のためにあるのか。魚たちがしたウンチは、誰が片付けるのか。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・体育では、どんなスポーツをするのか。 ・プールの深さは、どれくらい。泳げないから、プールが怖い。深いプールだったら、泳げない。プールにトイレがあるのか。プールで、もし、先生が手を持ってくれなかったら、溺れて死んじゃうと思う。

(2) 事前打ち合わせ（附属小教員・附属幼稚園教員）

「一日入学」の実施にあたり、小学校1年の担任教員が作成した「指導案」に基づき、幼稚園教員と小学校教員で意見交換を行った。事前打ち合わせを含め、5歳児担任と1年生担任とで検討し、指導案の修正は3回にわたって行われた（付録1）。3回の修正を経て、「一日入学」指導案には、1）1年生が司会を行う「はじめの会」、2）各教室で授業のような活動を1年生が見せたり、5歳児にやってもらったりする「授業参観」、3）1年生が学校内を案内する「学校案内」、4）1年生主導でゲームを行う「交流活動」、5）1年生が司会を行う「終わりの会」、が含まれた（付録1）。事前打ち合わせで「指導案2」をもとに話し合われた内容を表2に示した。

具体的に幼稚園教員から、園児の実態に即して依頼し、小学校教員がそれに応じて修正した点が以下の8点である。

- ① 向かい合い、見られていることで緊張する園児がいることが予想されたため一緒に隣に座るように変更した。
- ② 1年生数人のグループに5歳児1名だと、緊張することが予想されるため、1グループに5歳児2人に変更する。初めての交流であり、安心してスタートできるようにした。
- ③ 5歳児が安心してスタートできるように、「はじめの会」を加える。最初からクラスやグループに分かれるのではなく、最初は園児全員が同じ場にいながら、リラックスして始められるようにした。
- ④ 「終わりの会」に具体的な内容が加わる。1年生だけが進めていくのではなく、園児が発表する場も加える。
- ⑤ 「よい姿勢」「鉛筆の持ち方」など、形から入るのではなく、各クラスや班で考えたものに変更。
- ⑥ 交流の内容を変更する。また、並ぶ場所なども入り、より具体的になる。
- ⑦ はじめの会、終わりの会の並ぶ場所が決まる。はじめの会で並ぶ場所は、園児が各クラスに分かれて座るのではなく、全員が一緒に座ることで安心できるようにする。
- ⑧ 「トイレが心配」という園児がいるという実態に配慮して、トイレの時間を加えるという、具体的な提示がされた。

表2 事前打ち合わせの内容

内容	具体的話し合い
質問タイムや感想発表について	<p>b：「質問タイム」について，はじめの会だけではなく，終わりの会にも質問を聞いてもらえるか。</p> <p>A：終わりの会「5歳児感想発表」は，事前に練習するのか。</p> <p>b：「感想発表」は，園児の代表が言うのではなく，挙手をした園児に聞いていくようにする。特に練習はしない。</p> <p>A：終わりの会の質問は，幼稚園の先生が聞きとる形で進めてほしい。実行委員，あるいは，教師が答えるようにする。</p> <p>a：明確な答えでなくても，お兄さんお姉さんが答えてくれたということがいい。あとでフォローしてもらえたらいい。</p>
学校探検について	<p>b：学校探検は，1列に並んで行くのか</p> <p>A：本当は，グループで自由にしたいが，初めての交流で，5歳児を1年生5人が囲んで歩いて20分で戻るのは厳しい。教師が先頭で行く方が，安心ではないか。</p> <p>a：以前，…（中略）…一輪車や鉄棒，ジャングルジムなどを，僕たちすごいでしょと，1年生が教えてくれた。遊びの中で，いろんなことができることを，一緒に遊んで知っていく。…（中略）…小学生がチームごとに相談して計画したことを見せてくれた。その時は，「学校行ってあんなことするんだね」と期待を膨らませて帰ってきた。…（以下省略）</p> <p>A：天気のことがあるので，外は厳しいから，体育館とした。グループごとは，コロナ禍で，子どもの不安が大きい。子どもだけで怖い，よくわからないとなるよりは，20分という時間の中で，体育館に行くまでの道を，止まりながら，説明をする。移動の中で案内をする。その分，授業参観や最後の交流は，グループごとにする。</p>
授業参観について	<p>B：授業参観も，前で先生が喋って何かをする，というよりも，グループの中に幼稚園の子に入って，1年生5～6人と園児2人のグループで活動する予定である。</p> <p>A：何したい？と子どもたちに聞いてみたら，折り紙，マジカルバナナ，学校クイズなど…（中略）…何をするかまだ決まっていないが，担任主導でするにしても5分。よい姿勢など，教えてあげてね，という時間として考えている。</p> <p>a：「よい姿勢 鉛筆の持ち方・・・」とあるが，園側からすると抵抗がある。…（中略）…実際の様子をみて，どうやって勉強をしているのかを見るだけで，期待がもてるようになるのではないか。</p> <p>A：「よい姿勢でしましょう」とは言わないが，よい姿勢の音読というのがあって，…（中略）…子どもが嫌がっているようには，感じない。</p> <p>b：よい姿勢でいなければいけない，と思うと，それだけで緊張が増す人がいる。1年生が音読をしているのを見て，自分もあんなふうにしてみたいと真似をしていく。そこから，園児がこうすれば，自分も1年生に近づけると思えると，子どもが自ら，よい姿勢をやってみたくなるだろう。</p> <p>B：実際に1年生がどう動くかと考えたとき，「違うよ，鉛筆はこう持つんだよ！」と教えたくなるかも…（中略）…そこじゃないよね，目標は，ということは，1年生にも伝えたい。</p>

注) 大文字は小学校教諭，小文字は幼稚園教諭を示す。

表2から、小学校教員と幼稚園教員との間で、活動の目的に関する認識のずれがあることが示唆される。たとえば、はじめの会や終わりの会での発言や質問について、その場で浮かんだものを子どもに発表させるという幼稚園側の目的と、あらかじめ決まった内容を練習してきてその場で披露するという小学校側の目的では、いずれも子どもの声を発する点では同じだが、前者は「今ここ」での子どもの思いを重視するものであり、後者は子どもに失敗させない（あるいは会をうまく運営する）ことを重視しているのではないか。このような「ずれ」は、話し合いを重ねていく中で、幼稚園も小学校も子どもの育ちを願っていることは、同じであることに気づき、実際の子どもの姿を具体的に話し合い、共通言語を増やしていくことで解消できると考える。例えば、園児の「安心」を考慮し、グループの組み方や活動を変えることなど、指導案を見ながら、実際の子どもの姿を伝え合うことや、実際のある場所（プレイルームや体育館など）で打ち合わせをしたことで、実態に即して指導案を書き直してもらうことができた。今後、小学校の指導案作成に、幼稚園がどのようにかわり、一緒に作っていくことができるのかが課題である。

V 考察 「一日入学」当日の様子から

上記 IV2 (2) で作成した指導案をもとに、実施された「一日入学」について、参加した大学教員の記録から、1) 主体的な学びのつながり、と、2) 幼児期からの学びのつながり、の2点から考察する。

① 主体的な学びのつながり：相互の主体的な学びに向けて

上記のように、「一日入学」では、制限時間のある、決められた活動が複数用意されていたが、学校案内のように「ただ歩く」という時間においては、1年生が5歳児の背中にそっと手を当てて歩く場面や、図書室で本棚を触ったり確かめたりしながら見て回る場面が認められたり、会話しながら移動している様子が認められたりした。以下、川島の記録より抜粋したものである。

*移動中の様子。「小学校は中休みがあるんだけど、ないときもあるんだよ。幼稚園は？」
「幼稚園は、いっぱいいっぱい遊んでる」「入学した時は、遊んで、遊んで、遊んでだったんだよ」「幼稚園は遊んで遊んで、ご飯食べてる」「幼稚園はお弁当？」「うん。おにぎりとか」「小学校は給食だよ。給食室はどこでしょう」等、対話しながら移動する時間は大変有意義に見える。*

この記録からは、5歳児と1年生とが、制限された関係（「教える—教えられる」関係）ではなく、ともに活動へ参加している対等な仲間関係のもとで会話している場面だからこそ、お互いに聞いたかったことを聞けるなど、ゆるやかに交流することができたのであろうことがうかがえる。ここからは、今後、教員が設定した活動時間だけでなく、子どもがもっと自由にリラックスして過ごす直接的な交流の時間を通して、校種や年齢を超えて相互かつ主体的に学び合う活動を編成していく重要性が示唆される。

また、決められた活動が複数用意されていたことも、子どもたちの「主体的な学び」を難しくさせていた可能性がある。以下、大野の記録の抜粋である。

活動においては、終始、1年生のペースで物事が進んでいた。そのため、説明の情報量が多すぎたり、活動の展開が速かったり、5歳児が戸惑いを見せる場面が散見された。例

例えば、おべんきょうタイムも、もっとゆっくりじっくり一つの活動に取り組める時間的なゆとりがあったり、学校探検もすべての場所に回らなくてもいいから、気に入った場所、知りたい場所に5歳児がゆったりいられるような工夫があったりするといいいのではないだろうか。おそらく、今回の一日入学の活動は、2-3回に分けてやるくらいでちょうどいい量と内容であったのではないかと推察される。

さらには、5歳児が今回発した疑問を、すべてこの活動内で解決しようとするのではなく、小学校に入ってから自分で調べるための前振りとして、子どもたちに残しておいてもいいのではないかと考える。つまりは、5歳児から1年生にかけての2年間における架け橋期のカリキュラムの活動として、一日入学をデザインすれば、おそらく、学びの連続性として見えてくるものではないかと考える。

② 幼児期からの学びのつながり：幼児期に遊びを通して学んできたことを活かすこと

学校案内での保健室の説明では、1年生担任教員からの『幼稚園の子が安心できるように』という言葉がけによって、1年生の発案でペープサートを使い、5歳児もそれに応じるように笑顔を見せている様子が観察された。以下、大野の記録より抜粋する。

保健室の説明では、ペープサートが登場。5歳児の顔がほころぶ。C先生曰く「幼稚園のみんなが安心できるように」という言葉がけをしたところ、1年生から出てきた工夫がこの形だったそう。「子どもの発想は、大人の想像を超えるな」とC先生も嬉しそうな様子。

そのほかにも、5歳児の学びを支えるために、紙芝居、物語などを使って説明していた姿は、幼児期の経験（学び）が小学校入学後につながり、生かされた姿であると捉えられる。同時に、これらは、子どもの視点でとらえた教育支援の在り方として、小学校教員が計画する接続期の方法としても取り入れられる工夫であると考えられる。

幼児期に育まれた経験が、手をつなぐ、背中に手を当てる、扉を押さえるなど5歳児を思いやる態度、ペープサートや紙芝居のような幼児期に親しんだ教材を小学校の内容へ取り入れようとする工夫など、として現れたことは、単発の行事であったとしても、幼小接続という視点から切り取るからこそ見取ることのできる子どもの姿なのではないだろうか。

幼児期に遊びこんできたものが、学びとして紡ぎ出されているということが実際の1年生の姿からみえてきた。小学校において児童一人一人が自分らしさを発揮できる環境を整えていくことによって、幼児期に遊んできた経験が生かされ、その子らしく活躍する姿につながるのではないかと。

付記

この論文は、山梨大学教育学部幼小接続ワーキンググループでの取り組みをまとめたものである。執筆の分担は、野田（令和4年度5歳児担任）がⅠ，Ⅱ，Ⅳ，Ⅴ，荻原（令和3～4年度副園長・幼小接続ワーキング長）がⅢ，川島・大野（山梨県小学校教員養成特別教育プログラム）が全体調整である。

引用文献

平成14年度 研究報告「育ちの過程の連続性を考える」一幼小の連携を通して一（一年次）. 山梨大学教育人間科学部附属幼稚園. 2002

幼稚園・小学校の連携による取り組みから

平成15年度 研究報告「育ちの過程の連続性を考える」—幼小の連携を通して—（二年次）山梨大学教育人間科学部附属幼稚園．2003

平成16年度 研究報告「育ちの過程の連続性を考える」—幼小の連携を通して—（三年次）山梨大学教育人間科学部附属幼稚園．2004

「幼小接続座長試案」初等中等教育局幼児教育課 平成22年12月

令和4年度 山梨大学教育学部幼小接続WG報告書．2023

令和5年2月27日 中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会

付録1

<指導案1>

生活科「もうすぐ2年生」（1日入学について）案1

附属小1年

1 ねらい

○入学してからの1年間を振り返ることを通して、自分の成長を感じたり、進級への期待感や意欲を持ちたりすることができる。

○入学を控えた年長児の気持ちを想像し、入学を喜んでもらいたいという思いをもち、年長児と関わることよきや楽しさに気付くことができる。

子どもに提示するめあて（子どもの思いから下のよなめあてを作ります。）

- ・小学校と幼稚園との違いをおしえよう（不安をなくしてあげよう）
- ・附属小のわたしたちのことを知ってもらおう（1年生と仲良くしよう）
- ・附属小のことをおしえてあげよう（附属小の施設を知らせよう）

2 日時 令和5年2月27日 月曜日 10:20～11:50

3 場所 1年生教室、プレイルーム、体育館、他

4 参加者 附属幼稚園 年長児31名 引率 2名？ 附属小1年生 102名

5 内容

①授業参観（不安をなくしてあげよう）【各教室】

②学校案内（附属小の施設を知らせよう）【テラス、図書室、体育館、低学年広場、音楽室】

③交流（1年生と仲良くしよう）【体育館】…使用学級 3校時（ ）4校時（ ）

6 当日の流れ

時刻	内容	年長児の動き
10:20 (25分) ①	<p>授業参観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教室で年長児を迎え、小学校のことを紹介しながら、授業の様子を伝える。 ・年長さんと1年生が、向き合って居る。 ・お互いに自己紹介をする。 <p>よい姿勢 鉛筆の持ち方 音読 計算 文字（ひらがな、漢字、かたかな）など、各クラスで用意した内容を年長さんに知らせる。</p> <p>※これは授業参観の内容を活用してもよい</p> <p>★1年生が見せる ★やってみよう ★プレゼント</p>	<p>○プレイルームへ入り、トイレをすませてから、3グループに分かれて各教室に入る。</p> <p>○黒板前の台に座って、1年生の様子を観察する。</p> <p>※必要に応じてトイレ休憩</p>
10:50 (25分) ②	<p>学校案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の生活に関わりの深い場所を案内する。 ・年長児1名と、1年生4～5名で1グループ。 ・クラスごとローテーションで各場所を案内する。 ・班ごとに紹介する場所を決める。 	<p>○班に1・2名の園児が入り、班で一緒に校内を歩く。</p> <p>○1年担任が先導し、各場所で学校内の説明を聞く。</p>

7 前日までの取組

クラスで準備	グループで準備
<ul style="list-style-type: none"> ・当日の流れの確認 ・はじめの会の内容決定、分担 ・授業でどんな場面を見せるか内容の決定、分担 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明教室割り振り ・各教室等の説明の仕方

8 幼稚園との確認事項

- ・流れや時間はこれでよいか？
- ・引率職員人数は3名が可能か？
- ・各クラスの数と園児氏名（授業参観で活用するかもしれないため）

9 その他

- ・年長児持ち物 うわばき、ハンカチ、ティッシュ、マスク、水とう
- 運動靴は、プレイルームに置く。

幼稚園・小学校の連携による取り組みから

<指導案2>

生活科「もうすぐ2年生」（1日入学について）案2

附属小1年

(前略)

6 当日の流れ

時刻	内容	年長児の動き														
10:15	<p>③ はじめの会（実行委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児が来るより前に、プレイルームで待機する。 班ごと（担当ごと）に整列する。 司会は、学年実行委員（新）が担当する。 <p>次案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめの言葉（ ）司会（ ） 2 かんげいの言葉（1年） 3 今日のながれ・注意点（1年担任） 4 質問タイム（1年） 5 おわりの言葉（1年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間に間に合うように幼稚園を出発し、低学年玄関より、学校内に入る。 ○運動靴を脱ぎ、上履きに履き替える。運動靴をどこに置くのか？持っていくのかは検討 ○園児の場所等もプレイルームで事前に確認をする。 														
10:35	<p>① 授業参観（進行は1年生担任）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教室に年長児を迎え、一緒に座る。 お互いに自己紹介をする。 <p>⑤ よい姿勢 鉛筆の持ち方 音読 計算 文字 (Dらがな、漢字、かたかな) など、各クラスで用意した内容を年長さんに知らせる。</p> <p>※これは授業参観の内容を活用してもよい 一学級裁量で、1年生の思いを確認して</p> <p>10:55</p> <p>★1年生が見せる ★やっってもらい ★プレゼント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○プレイルームへ入り、トイレをすませてから、3グループに分かれて各教室に入る。 ※幼稚園から名簿確認 ○各グループに入って一緒に活動を行う。(体験活動) ※必要に応じてトイレ休憩 														
11:00	<p>② 学校案内</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の生活に関わりの深い場所を案内する。 年長児2名と、1年生6～7名で1グループ。 クラスごとローテーションで各場所を案内する。 ※基本は、 ・班ごとに紹介する場所を決める。 ・最後は体育館に集合する。 	<p>案内順</p> <table border="1"> <tr><td>1年教室</td><td>1階3F-14</td></tr> <tr><td>テラス</td><td></td></tr> <tr><td>長年図書</td><td>1階3F-14</td></tr> <tr><td>ホール</td><td></td></tr> <tr><td>音楽室</td><td></td></tr> <tr><td>図書室</td><td>1階3F-14</td></tr> <tr><td>保健室</td><td></td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○グループに2名の園児が入り、班と一緒に校内を歩く。 ○1年担任が先導し、各場所で学校内の説明を聞く。 ○体育館に集合後、体育館でトイレを済ませる。 	1年教室	1階3F-14	テラス		長年図書	1階3F-14	ホール		音楽室		図書室	1階3F-14	保健室	
1年教室	1階3F-14															
テラス																
長年図書	1階3F-14															
ホール																
音楽室																
図書室	1階3F-14															
保健室																

7 前日までの取組

クラスで準備	グループで準備	実行委員
・当日の流れの確認	・説明教室割り振り	・新実行委員の決定
・授業でどんな場面を見せるか内容の決定	・各教室等の説明の仕方	・司会の担当
		・交流の内容・流れの決定
		・リハーサル

8 幼稚園との確認事項

※直接附属小に来ていただき、どのような動きが可能なか確認をしたい。

日時の調整

9 その他

- ・年長児持ち物 うぶばき、ハンカチ、ティッシュ、マスク、水とう
- 運動靴は、プレイルームに置く。

<指導案3>

生活科「もうすぐ2年生」（1日入学について）案3

附属小1年

(前略)

6 当日の流れ

時刻	内容	年長児の動き																
10:15	<p>③ はじめの会（実行委員1組）</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児が来るより前に、プレイルームで待機する。 班ごと（担当ごと）に整列する。 司会は、学年実行委員（新）が担当する。 <p>次案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめの言葉（ ）司会（ ） 2 かんげいの言葉（ ） 3 今日のながれ・注意点（ ） 4 質問タイム（ ） 5 おわりの言葉（ ） 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間に間に合うように幼稚園を出発し、低学年玄関より、学校内に入る。 ○運動靴を脱ぎ、上履きに履き替える。運動靴は、低学年玄関の上に置く。その後上履きに履き替える。 ○園児の場所等もプレイルームで事前に確認をする。 ※入り口側に集まってすわる。 																
10:30	<p>⑤ 授業参観（進行は1年生担任）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教室に年長児を迎え、一緒に座る。(椅子の準備) お互いに自己紹介をする。 各クラス・班で考えたものを一年生と一緒に行う。 ★1年生が見せる ★やっってもらい ★プレゼント ※トイレにいきたい子が出た場合は、一人につき一人の1年生が一緒に行ってあげる。 <p>⑧</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○プレイルームから、トイレをすませてから、3グループに分かれて各教室に入る。 ※各教室の前まで園児を連れてくる。合図があったら教室の中に入り、班の中へ。 ○各グループに入って一緒に活動を行う。(体験活動) ※必要に応じてトイレ休憩をとる。 																
11:00	<p>② 学校案内</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の生活に関わりの深い場所を案内する。 年長児2名と、1年生6～7名で1グループ。 クラスごとローテーションで各場所を案内する。 ・班ごとに紹介する場所を決める。 ・最後は体育館に集合する。 	<p>案内順</p> <table border="1"> <tr><td>1年教室</td><td>1階3F-14</td></tr> <tr><td>テラス</td><td></td></tr> <tr><td>長年図書</td><td>1階3F-14</td></tr> <tr><td>ホール</td><td></td></tr> <tr><td>音楽室</td><td></td></tr> <tr><td>図書室</td><td>1階3F-14</td></tr> <tr><td>保健室</td><td></td></tr> <tr><td>体育館</td><td></td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○グループに2名の園児が入り、班と一緒に校内を歩く。 ○1年担任が先導し、各場所で学校内の説明を聞く。 ○体育館に集合後、体育館でトイレを済ませる。 	1年教室	1階3F-14	テラス		長年図書	1階3F-14	ホール		音楽室		図書室	1階3F-14	保健室		体育館	
1年教室	1階3F-14																	
テラス																		
長年図書	1階3F-14																	
ホール																		
音楽室																		
図書室	1階3F-14																	
保健室																		
体育館																		

7 前日までの取組

クラスで準備	グループで準備	実行委員
・当日の流れの確認	・説明教室割り振り	・新実行委員の決定
・授業でどんな場面を見せるか内容の決定	・各教室等の説明の仕方	・司会の担当
		・交流の内容・流れの決定
		・リハーサル

8 幼稚園との確認事項

※直接附属小に来ていただき、どのような動きが可能なか確認をしたい。

日時の調整

9 その他

- ・年長児持ち物 うぶばき、ハンカチ、ティッシュ、マスク、水とう
- 運動靴は、プレイルームに置く。